



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065 編集 早川清志 題字 島崎洋路

『簡単?便利!ぶり縄』

通年コース第十二回開催報告『枝打ち』

年齢層が下がるにつれ、『子ども頃に裏山で木登りをした率』はどんどん下がっていきくのではないだろうか。ここの信州の田舎でも、よそのお屋敷の柿の木に上り、柿を失敬する悪がきの話なんてトンと聞きません。良い事が悪い事は別にして、ちょっと寂しいなと思うのは、おじさんの単なる郷愁が。

なんていうことはおいて、ぶり縄の木登り、いかがでしたか。昔を思い出したおじさんたちは子どもの頃に帰り、未経験の若手達は、なんと楽しい事があるんだらうと目覚めてしまいました。プロが仕事に使うことは、今ではほとんど無いと思われませんが、非常手段として、あるいは補助的に、ロープ一本あれば、そのあたりの棒切れと組み合わせるとどんどん木に登ってしまうというところはやっぱりすごい技術です。

さて、枝打ち。この5W1Hのなかで最初にしっかりと決めておかななくてはならないのはやはり、「なぜ」です。どんな山にしたいのか、どんな材の生産を目指すか、これが決まっていなくて「いつ、や」というように「が決めにくいからです。無節の柱材を作りたい

のか、大径良質材なのか、これらにより時期や方法もおのずと異なってきます。まず目的を決め、それに合わせた施業を行う事はすべての山造りの基本といえるでしょう。枝打ちは間伐と違って、やらなくてもそれなりに木は育ちます。枝打ちをするその一番大きな目的は保科先生が言われた「付加価値をつける」ことです。現在でも、これから先も、普通のスギや普通のヒノキは日本全国にあふれ、抑えられた相場でしか引き取られませんが、せつかく植えられたヒノキや

の、大径良質材なのか、これらにより時期や方法もおのずと異なってきます。まず目的を決め、それに合わせた施業を行う事はすべての山造りの基本といえるでしょう。



安全ベルトは忘れずに



なにやってるだ~よ、大丈夫か~



丁寧に、質で勝負



ひとつ越して・・・???

スギ、間伐とセットにした枝打ちで美林にしてあげませんか。

通年コース 第十二回 枝打ち 9月21日(土)

8時30分 鳥崎先生の山小屋に集合。保科先生のあいさつ。本日の日程説明

8時50分 ぶり縄作りに入る。まず十二メートルに切った麻ロープの両端にアイ(蛇口・へびくち)を作る作業。イントラ後藤の説明後四組に分かれて開始。できてしまえばそれほど難しくないが、最初にボタンを掛け違えるとさあ大変、いちから直しです。できた形が美しければ恐らく正しい作り方で作られたと思われ

ます。美しさと強度には相関関係があります。

三十分あまりで大方完成。今年は皆さんのみこみが早い。ここで保科先生の实用ロープワーク教室が始まりました。

9時30分 麻ロープに手木(しゅもく)をつける。材料は、今年の植林地の灌木林から伐り出してきたネジキ・エゴノキ・リョウブの三種。各々方どれにしました?

10時 小屋横のヒノキ林にてイントラ石原の模範演技。さくさくとぶり縄をセットして、軽々と一段二段登ってゆくのは、さすが。その後、各人練習。足のストロークに苦労していた方、ずり落ちそうになつた方、早くも三段登つた方など個人差はありましたが、自分で作った道具での木登りはなかなかおもしろかったことと思

い。



蝉がいっぱい？

11時 保科先生の枝打ち方法
 実技。愛用の「あぶみ」の上で、くるくると体重移動をしながら、これまた愛用の枝打ち鉋で丁寧に仕上げがりがよく枝打ち。「量より質」。

12時 昼食。気持ちのいい秋晴れに、鳩吹公園の芝生の上で。

13時 車に分乗して、中条の山へ。いよいよ枝打ちの実践。ぶり縄だけでなく、保科先生のおぶみやワントンタッチラダーも使ったの枝打ち。無節材の生産も目的ながら、枝を打つことで林に光が差し込み林内環境の改善にもつながる枝打ちは、やはり欠かさない作業のひとつです。



愛の大きさはどのくらい

しよう。間伐と組み合わせるとより効果的。皆さん午前中の練習の成果を如何なく発揮し、どんどんすつきりした樹が増えてくる。木洩れ日が綺麗な林を眺めながら、山主の小坂さん差し入れのりんごを頂いて、今日の作業を終えました。

16時 小屋へ戻り、解散。

参加者／江尻さん、尾形さん、長部さん、梶原さん、北澤さん、鬼頭さん、木村さん、黒岩さん、小泉さん、斉藤さん、佐藤(章)さん、館野さん、坪内さん、長谷川さん、測上さん、松田さん、宮沢さん、山下さん、山田さん、和辻さん、風見さん、佐藤(誠)

さん、長坂さん、芳賀さん、講師／保科先生
 スタッフ／石原、川島、後藤、平林、早川、坂野

次回以降の予定
 第十三・十四回
 「測量・製図」
 「林道設計」
 10月4日(金)5日(土)
 林の広さ・傾斜の測り方と製図の方法、林に入って作業をする為に日々通う道作りの二日間です。8時30分鳥崎先生の山小屋に集合。BかHBの鉛筆、電卓(三角関数機能の付いたものがベター)、分度器、定規も忘れずに。



集中コース秋の部
 10月31日(木)
 ～11月2日(土)
 森林調査(測樹、樹木分類)から伐倒、搬出まで森林塾のエキスです。参加者募集中。締め切りは10月10日(木)必着

専門コース第三回開催
 10月17日(木)
 ～19日(土)
 専門コースの最終回になります。安全な伐倒、かかり木の処理などを完成させましょう。8時30分鳥崎先生の山小屋に集合。



さすがの石原、お尻が軽い！！

リレー通信

高遠 気まま暮らし はや四年
 長谷川 健治

一九九八年八月八日高遠・長藤(おさふじ)に家が完成した。私のつれあいが二十数年來夢に見ていた田舎暮らしの拠点ができた。上伊那郡高遠に決定するまで那須・軽井沢・秩父・八ヶ岳・小諸・河口湖と随分あちらこちらとみてまわった。

希望は「山が見えて 夏涼しく冬は適度に雪が降り(斜面で雪ぞりができるくらい)」という意味らしい・スキーはできないから)近くにクレソンが栽培できるくらいの小川が流れている。里山では季節の山野草が咲きほこり、庭で小さな畑と花壇を楽しめ、石窯でピZZアを焼くスペースがあればよい」という。私の希望はただひとつ薪ストーブであり、つれあいにいわせるとこれがいちばん高価なモノらしい。この薪ストーブ購入が森林塾へと繋がってくるのだが、動機が単純で少々恥ずかしい。高遠町長藤はつれあいの希望を九十%はかなえていると思う。

高遠に来るとつれあいは、朝五時起床夜は十時就寝と起きている間は常にイキイキと動いている。畑、花壇の草取り、裏山の散策、入笠山・守屋山の山野草の写真、押し花



輪っこの中から輪っこを出して鎖にすると



作り、リース作り・・・その間をぬって掃除洗濯・三度の食事。私もただノンビリしているわけでもない。力仕事や大工仕事は小生の役割。

家ができた当時、つれあいが「道路側に柵をつくった」と簡単にいつてくれた。板を買い、角材を買い、釘を買い、ツルハシ・スコップ・カナツチ・メジャーも買い、ついでに電動丸ノコも買った。そして約三十メートルの長さの塀らしきものを作った。これが道具の便利さ・楽しさに気が付き、電動工具類の買う楽しさを覚えたきつかけである。春になったら外で食事がしたいとつれあいがいつたので、ウッドデッキの本を買った。とても簡単そうに書いてあったが、面倒くさそうなので参考にするのはやめて、エイヤツと写真を見ながら水平取りも何のその、適当になんとか出来上がった。デッキの上のモノが転がらないからまあまあ水平らしい。出来栄はお世辞にも上手と

はいえないが自分では満足している。電動道具は増えた。ドリル・ドライパー・二つ・グラインダー・カンナ・サンダー。ついでにチェンソーも買ったが、森林塾で使用している物と比べるとオモチャのようで、今思うと少し買うのが早まったと後悔している。つれあいの隙を見て新しいのを買うチャンスを探っている・・・。



というような暮らしをしている間に四年が経ってしまつた。我が部落名(住人の皆さんは部落という)は栗田という。部落のみなさんは当初「何者がきたか」というような眼で我々をみていた。話をすると「なんでこんな田舎へきたかね」という質問ばかりであった。最初の日、挨拶回りをした。総数四十九戸、現在住んでいるのは二十八戸でこの村も過疎真っ最中、と村

人の話。玄関の表札は横長で全員の名前が書いてある。部落の二十三軒が北原姓で、苗字を呼んでも誰の事やらという理由で全員の名前が必要であり、家々に屋号がある。部落から二百メートルほど離れている山裾の我が家の生活用水は沢水に頼っていたが、冬二月パイプが凍り水が出ない。このとき人間の生活には、電気より火より何よりも水が必要であることを納得した。温度計を見るとマイナ

ス十二度。初めての経験であり、どんなものか外に出ると頭が凍るようであり、帽子を被らないと脳みそが凍るとあって村人に脅かされた。これから先の事を考え井戸を掘った。五十五メートルも掘ったお陰で安心して美味しい水がでたが思わぬ出費。

お米は下のMさんから買っている。初穀のままなので食べる時に食べる分だけ自動精米する。「おいしい」。S夫さんはタラの芽を取りに行く時誘ってくれる。自分の山に軽トラで連れて行ってくれる。酒タラの木も初めて見た。酒盛りの時も「夕方から一杯やるけどくるかね」と誘ってくる。これは何より嬉しい。なにを差し置いてもお伺いする。だけと皆さん強い。「まずはビールから」なんてことはなく、初めから熱燗。S八さん、K雅さん、M美さん、S

夫さん、皆さんが次々と薬缶でサービスしてくれる。その日のメインは行者ニンニク、美味しいのなんのつて酒がすずみ何かなんだかわからなくなり、結局ベロベロになりお恥づかしい話。記憶がなくなつてしまいい医者さんに運ばれた。本人にも覚えていない。生涯の不覚。その時はたまたま一人で高遠暮らしをしていたので、次の日の朝奥さんがお粥をつくって届けてくれた。またまた感謝感謝で、お礼を言いながら恥づかしい思いをした。

畑仕事のアドバイスもありがたい。土壌の作り方 作物により畝の作り方の違い、時期...いろいろ教えてもらつて作った拳句、鹿とイノシシにすべてご馳走として献上してしまつた。そんな悲惨な状況を知っているみんなが野菜はほとんど持ってきてくれる。なかには持つてくるのが面倒だから好きなだけ畑から採つていけと、やさしい人もいる。ということでは我が家の畑はつれあいの趣味とシカ・イノシシの餌となつており食用は村の皆さんの温情に頼っている。

現在、月二回ほど川崎から



高遠に遊びに来ている。丸四年が経つが四季折々毎年新しい発見があり、つれあい共々少しも飽きがこない。話があちこち飛んでしまつたがぜいたくは望まない、美味しいものを食べて、楽しく汗を流して生きていきたい。

私達夫婦にとつて高遠は桃源郷である。身体が丈夫なうちには高遠で遊びまわっていた。今年は石釜を作る予定です。

私の同居人であるコタローは、今年の七夕(七月七日)に我が家に来た、生後三ヶ月の のつさぎである。これまで動物は飼つたことが無く、特別な愛情は持っていなかったが、知り合いのウサギを見たときたんそのかわいさに魅了された。しかもそ

リレー通信

徒然なるままに 鈴木 香織

のウサギが子どもを産むと言うではないか。これは！と思ふ。一羽譲つていただくことになった。コタローは青森県の十和田で産まれた。グレーと茶色が混じつたハリネズミみたいな色のウサギだった。初めてあつた時はまだ小さくてブルブル震えていた。その時のかわいさといつたら、言葉では表せないくらいだ。我が家に来て、もう二ヶ月半が過ぎた。今では慣れてくれて順調に育っている。今は育ち盛りで腕白盛り。家中の物をとにかくかじる。コタローと生活してみても、初めて動物つてこんなにかわいかつたんだと実感した。今では人の家のベツトを見てかわいくて仕方が無い。変われば変わるものだ。これからも末永く一緒に生きて行きたい。

本 我が家にはテレビが無い。ラジオもCDプレーヤーも無い。とにかく音の出るものは何も無いのだ。しかもアパートに一人暮らし。これではあまりに退屈だ。そこで大活躍なのが本である。本を読んでいるとあつという間に時間が経つてしまふ。退屈しない。本来勉強好きでない自分は古本屋に行って、興味の湧いた本を買いあさり、毎晩読みふける生活をしている。お陰で

電化製品はあまり無いのに、本ばかりが増え続ける。

でも最近困った事態になりつつある。それは時代についていけなくなったということだ。ついていけないといっても流行についていけないわけでもない。日々の情報が入ってこないということだ。どこかで事件があっても、地震がおきても、何も分からないわけだ。芸能人に関しては最近知らない名前がやたらと多くなった。幸いなことにパソコンスクールに勤務しているの

で、最低限の情報はインターネットから得ている。でもやっぱり足りない。最近同僚に「そんなことも知らないなんてやばいですよ」とよく言われる。シンプルライフを指しているが、やっぱり、テレビくらいは買おうかな・・・と真剣に考えている。

アジア

アジア料理・アジア雑貨。今ちょっとはまっている。ア



アジア料理や多国籍料理と名の付く店に通っては、タイビールを飲み、生春巻きを食べている。ビールは最近酒屋さん

などでも、手に入るようになったらしいので、いろいろな種類のビールを購入して飲んでみたい。食べものは元々辛いものに弱い体質なので、「ヒーヒー」言いながら食べている。雑貨屋さんを見て歩くだけでも楽しい。もちろん気に入ったものがあれば買う。部屋全体にアジアの雰囲気を感じてみたい。

森

なぜだかわからないが、昔から森が木が大好きだった。素敵な木があると無意識に抱きついてた。森の中を歩くとどうしてこんなに気持ちが良いのだろう。職業柄、普段は肉体的な疲れよりも、精神的な疲れのほうが強い。そんなとき天気の良い休日

森の中に入る。特別何をするわけでもない。ただボーっと木が風に揺れる音や、川の流

れる音、鳥の鳴き声を聴く。それだけで自分が素に戻れるような気がする。硬い鏡が取れて素直な自分と向き合える。そんな素敵な森が荒れたら、減ったりしてしまうことに、自分なりの危機感を覚えた。自分から出てくることは無いのかと考える。こんな素敵な時間

を与えてくれる森のために・・・。そう思い始めたら、いてもたつてもいらなくなると、森に関する本を読みあさった。その本の中でKOA森林塾を知った。これは何が何でも参加したい。そう思った。参加することで自分と同じような思いを持っている人たちと知り合い、ネットワークを広げて、今後いろいろな活動に参加していきたいと強く思った。そんな勢いで参加してしまっただが、本当に貴重な体験ができ、心から参加してよかったと思えた。

最後に

徒然なるままにと言いながらとにかく自分の今大切にしていることを挙げてみました。今後は、「自然と共に生きる」を合言葉に、森に関わりあつて生きていきたいと考えています。現在、身近な所で

行われているボランティアに登録したり、参加したりすることを試みています。でも情報不足で、気持ちばかりが空回りしてしまっているのが現状です。KOA森林塾で皆さんと出会ったことはとても貴重なことであり、この出会い

を大切にしたいと考えています。実はシャイな面も持ち合わせているのでなかなか自分から積極的に話し掛けたりすることが苦手なのですが、今後皆さんと情報交換やいろいろな交流ができれば・・・

と考えております。これもどうぞよろしくお願い申し上げます。

お世話になりました先生方、スタッフの皆さん、講習生の皆さんに感謝しながら、支離滅裂な文章を締めくくらせていただきます。と思います。



コラム

私は火遊びが好きである。アバンチュールのほうではない。そんな人、森林塾にはいないでしょ。火遊びはいろいろあつて炭いじりもそのひとつ。

鳥崎先生の小屋の近くで炭焼きをしている人がいて、会つてみたいし、使つてみたいと思ひ、買つて以来炭に夢中である。今、炭の消費量は、年間五万t。昭和二十九年では二百万tだったらしい。二百万tという量にも驚くが、それでも今五万tも消費があるのかと思う。どんな使用目的なのだろう。

炭を買ったときおじさんが、火鉢の話をしてくれてそれがとってもよかった。「煮込みなんて、もー最高だ

に」。おじさんの火鉢は長火鉢。私は瀬戸火鉢を探している。わが伊那銀座通りの商店街の瀬戸物屋さんでも扱っており、今でも注文すればすぐ入荷することにびっくりした。まだ作っているのだ。かみさんに火鉢が欲しいのだと言つと、「買うのは、待つて！」といわれた。大きくて邪魔ということなのだろう。仕方ないから「待つ」ことにし、その間どんな火鉢があるのか、どれがいいのか検討することにした。いぬは、「待つて」と言われても、いずれば「よし」と言われて飯を食べるではないか。「よし」を「待つて」。この期間にだいぶ火鉢のことを知った。

ある日、いつも見ている骨董屋のホームページでかわいらしい小ぶりな火鉢が出た。新着だ。青の地にさくらの花が散らせてある。かわいらしくシンプルな模様である。

「吹き墨桜文様」であるな。サイズからして手あぶりである。なんといつてもかわいらしい。これはかみさん好みの模様だなど思うたので、見せた。間もなく注文作業に取り掛かっていった。かわいい妻よ。ウシシ！いま、和室にある。ホームページの写真よりも実物のほうがいい。骨董なので在庫は一つ。よかったねえ。かくして

「よし」だ。だつて自分が買ったんだもの。ウシシ！出発信号は点いた。骨董屋の主人から使い方による種類の選りなどアドバイスも頂いた。これで気に入ったのが出たら、いよいよ購入だ！こつこつに鉄瓶で茶を一杯。するめを焙つて熱燗で一杯。あのおじさんの炭で。くうー。天国。

いま、薪風呂で出来る灰をためています。中に入れる灰がたくさん要る。炭は燃料以外にも用途があるのでそつちも勉強中。自分で焼くのも興味ある。山で柴刈りをして炭にしてみようかな。あのおいも好き。火事と一酸化炭素中毒にご注意。

「カブ夫」

おわりに

秋桜・彼岸花・萩・・・。白骨・小谷・野沢・・・。ソニーク・ラク・バドパウエル・ビル・エバンス・・・。風立ちぬ・・・。豊饒の海・・・。海の向こうから・・・。秋をゆつくりと過ごそうかな・・・。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。TEL 0265-70-7065 FAX 0265-70-7994



E-mail: ki-hayakawa@koanet.co.jp sh-sakano@koanet.co.jp mi-tsuboki@koanet.co.jp 携帯:0902-53-26375 (開催日) H.P.http://www.koanet.co.jp